２人の富太郎（その１）～「牧野記念庭園」～

練馬区には，２人の著名な富太郎の住まいがあります。１人は，植物好きにとってのバイブルである「原色牧野植物大図鑑」の著者「牧野富太郎博士」。そして，もう１人が，子どもの生きた姿を教育という切り口で浮き彫りにしようと，独自のフィールドワークによって新たな日本教育史を構築した「唐澤富太郎博士」です。この２人の富太郎を訪ねる散歩に出かけてみましょう。

牧野富太郎が大正１５年から昭和３３年まで住んだ東大泉の住居は，牧野記念庭園として練馬区に寄贈されています。庭園の広さは６６２坪，一般住宅と比べ格段に広いものです。

彼が大泉に転居してきた理由は，関東大震災によって，それまで蓄積した学術資料を相当焼失してしまったことで都心を避けたことと，寿衛子（すゑこ）夫人の，植物園のような感じの家にしたいとの願いを受けたからだと言われています。

ところで，この夫人の名を冠した植物に「スエコザサ」があります。園内にも「花在れバこそ吾れも在り」の碑の周囲に植栽されています。彼が，このスエコザサを仙台市郊外で発見した翌年，寿衛子夫人が亡くなっており，妻に対する感謝の意を込めて命名に及んだと言われています。

しかし，シーボルトが愛人の楠本滝を偲んでアジサイに「オタクサ（お滝さん）」と命名したという粋な計らいに対しては，「我が閨（ねや）で目じりを下げた遊女のお滝の名を之に用いて，大いに花の神聖を汚した。」と激怒しています。ともに愛するものを偲んでという共通点があるにもかかわらず，矛盾に満ちたエピソードとなっているのは面白いことです。

他に，この庭園には，ヘラノキやイイギリ，センダイヤザクラ，チチブフジなどの貴重な植物約３４０種が植栽されています。ちなみに，私にはヘラノキがシナノキとほとんど見分けがつきませんでした。でも，よく見ると葉の形がどれも極端に左右不同でいびつだったので，思わず笑ってしまいました。やはり本物との出会いが新しい発見に満ちていることは間違いありません。

牧野記念庭園は大泉学園駅南口から徒歩５分，入場無料です。是非一度お訪ねになってみて下さい。なお，下記ＵＲＬ（練馬区ＨＰ）にて，「牧野記念庭園物語（30 分）」を視聴できます。「牧野富太郎～私は草木の精である」（渋谷 章著／平凡社刊）とともに，本コラム作成の参考にしました。

http://www.city.nerima.tokyo.jp/kocho_koho/koho/video/doga_list.html